

事業概要：（仮称）台東区産業活性化拠点整備及び交流を通じた新たな価値創造の推進と地域産業の持続的な発展

新規

申請者	東京都台東区					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,189,177千円 (1,024,477千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・事業者や地域のつながりが強化され、新たな価値創造やビジネスチャンスの創出、地域の賑わい創出、魅力の発信に繋げる。 ・個性豊かなクリエイターを育成し、輩出することで、区内外の事業者との共創を促進する。 ・地場産業や産地、姉妹・友好都市等と連携し、それぞれの魅力を高め、産業を活性化させる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 築約100年の復興小学校である旧小島小学校を「交流機能」「創業支援機能」「中小企業支援機能」をもつ新たな産業活性化拠点として整備する。これら3つの機能を、相談から事業化、販路開拓、成長へと自然に行き来させ、相互に作用する産業エコシステムを構築する。このプロセスの中で、多様な事業者が有機的に連携し、知識・情報・ネットワーク・顧客が循環することで、地場産業はもとより、全国のものづくりの産地や姉妹・友好都市等の産業を活性化させる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・交流施設・創業支援施設開設準備（委託料）18,777千円 ・海外展開等に向けたマーケティングリサーチ（委託料）5,700千円 ○拠点整備事業 ・建築物本体工事（仮称）台東区産業活性化拠点整備 1,000,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①台東区製造業事業者の付加価値額（+71億円） ②他自治体と連携した取組み数（+108回） ③創業支援施設を卒業したクリエイター数（+42社） ④創業支援施設入居者・卒業生の年間付加価値額（+5,622万円） ⑤産業公式SNSフォロワー数（+3,600人） ⑥区の支援を受けた事業者のうち、自社単独で海外展開を行う事業者数（+9社）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.taito.lg.jp/bunka_kanko/sangyotokei/sangyoplan/chiikimirai.html

事業概要：青梅スタジアム整備事業

～プロ野球チーム創設を契機とした、持続可能なまちづくり推進事業～

新規

申請者	東京都青梅市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	960,879千円 (141,535千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・青梅スタジアム整備を軸として地域資源を最大限活用し、地域の稼ぐ力の強化と地場産業の付加価値向上を目指す。 ・スポーツを通して多くの人々が利用し集い交流する賑いの場を形成することで、地域一帯の魅力を高め、誰もがスポーツに親しみ、熱気のある持続可能なまちを実現していく。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 圏央道青梅ICに近く、交通アクセスの良い市内東部の立地にある青梅スタジアムを計画的に改修・機能強化することを通して、地域資源を最大限活用し、稼ぐ力の強化、安定した暮らしと好循環を生み出す仕組みを構築するため、以下の3つの事業を一体的に展開する。 ①青梅スタジアムを軸とした市内東部の魅力と回遊性の向上、地域の特産品の活用・消費拡大 ②スポーツイベント、交流イベントの開催 ③安全、安心で利便性の高いスタジアムの整備。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・ネットフェンス新設設計委託 19,075千円 ・ダッグアウト整備工事 88,000千円 ・室内練習場の解体等工事 25,989千円 ・雨水排水機能強化等工事 6,710千円 ・整備用品収納倉庫 1,761千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①人口の社会増減数（+350人） ②週1回以上スポーツを実施する市民の割合（+17%） ③青梅スタジアムの利用者数（+8,800人） ④独立リーグ公式戦への年間来場者数（+8,300人） ⑤地域における観光消費額（+1億187万円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年12月公表予定

事業概要： 芹ヶ谷公園“芸術の杜”推進事業

継続

申請者	東京都町田市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,789,819千円 (17,303千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	芹ヶ谷公園を“芸術の杜”というテーマのもと、まちなかから繋がる緑あふれるゆとりの空間として、より多くの方から親しみ愛されるアート体験棟（交付対象）、美術館（交付対象外）と公園の整備（交付対象外）を進める。 「体験型の公園」としてさらなる魅力向上を図り、新たな賑わいや交流、経済的な価値だけでは測れない潤いや豊かさを生み出し、市全体の居心地のよさによるブランド価値の向上に貢献することで、2040年の将来人口400,000人以上の維持を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 公園と美術館等を一体的に運営することで、公園という市民に開かれた身近な空間が、多様なアートに親しむ入り口となることを目指している。例えば、美術館での美術品の鑑賞に留まらず、本公園の空間と一体となった参加型のアートプログラムなどが公園の様々な場所で展開されるなど、公園の豊かな自然を感じながら多様なアート活動に五感を通じて触れられる体験を提供することで“ここならではの”価値の創出を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 公園内に「(仮称)公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟」を整備 ・建築物新築工事 17,303千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口（対推計人口増加分）（+336人） ②園内イベント（ワークショップ等）の参加者数（+712人） ③多様な主体による「（仮称）公園案内棟／喫茶／版画工房／アート体験棟」の施設利用率（+62.75%） ④市内で文化芸術活動に触れる機会を持つことができた市民の割合（+12%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.city.machida.tokyo.jp/bunka/park/shisetu/serigaya/art_project/index.html

申請者	東京都多摩市					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	153,125千円 (94,290千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	当市は、都心への良好なアクセスを活かし、大都市郊外のベッドタウンとして成長してきたが、丘陵地にあるニュータウン地区では少子高齢化と人口減少が顕著となっている。自動運転バスの導入を通じて、市民にとって必要不可欠な路線バスの維持・確保を図ることで、少子高齢化や人口減少が進む中でも都市の活力と魅力を維持することを目的とする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・1年目に続き、大型自動運転車両（リース）を活用したレベル2 有償運行を実施し、運行本数を増加させ、より社会実装時に近い環境にて事業性検証を行う。 ・開発中の大型自動運転車両を活用し、国内バス事業者に対して検証結果をフィードバックするなど、需要が高いセグメントの車両開発促進を行う。 ・R7年度の走行時の課題も踏まえて、鶴牧循環及び豊ヶ丘線（回送ルート）の実証運行を実施する。出庫、営業、入庫の一連オペレーションの自動運転化における課題の洗い出しを図る。 ※ 次年度（R9年度）以降の、レベル4 運行等を目指す。					 2027年度以降のL4実施を目指す。 原則、自動運転(必要に応じて手動操作)」 多61 鶴牧循環 ※上記に加え、豊ヶ丘線（回送ルート）の実証運行を実施	
	【R8年度事業 経費内訳】 【年間収入】960千円 （内訳） ・運賃収入 960千円 【年間支出】95,250千円 （内訳） ・自動運転車両費（リース） 20,700千円 ・車両関連費 1,095千円 ・システム関連費 4,175千円 ・設備関連費 3,000千円 ・リスクアセスメント費 31,400千円 ・労務費 32,880千円 ・その他（認知拡大・利用促進） 2,000千円						
主なKPI	・将来展望人口（目指すべき将来人口）の増加人数（+51人） ・自動運転走行率（+85%） ・自動運転車両の乗車人数（+4,800人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年9月公表予定

事業概要：ステークホルダーとの共創による地方創生SDGsの推進

新規

申請者	東京都西東京市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	178,959千円 (45,921千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・SDGs未来都市への選定を契機に、地域の多様なステークホルダーとともに「社会・経済・環境」の取組を推進し、交流人口・関係人口の増加に伴う地域経済の拡大を目指す。 ・市の地域課題や目指す将来像を共有するプラットフォームを設置し、ステークホルダーとの連携・協働に向けたしくみを構築する。 ・地場産業の継続的な魅力発信や地域の活性化につなげ、地域経済の自立的な好循環の形成や地域経済の拡大に資する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 社会：若者をメインターゲットとする情報発信基盤を整備し、市の魅力発信を強化するとともに、若者の市への愛着等を高める。 経済：市が認定した個店独自のモノやサービスなどの地域ブランドを市内外にPRすることで、地域内経済の活性化を図るとともに、市内に点在する地域資源を有機的に結び付けた地域資源マップを作成し、市外からの来訪者数の増加を図る。 環境：市民協働により管理・運営する特別緑地保全地区において、多様なイベントを開催し、市内外からの来訪者数の増加を図る。 横断的な取組：SDGsをテーマとするプラットフォームを設置し、田無駅南口エリアなどにおける共創に向けた検討・実施や取組の効果検証を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・SDGsプラットフォームの運営支援（委託料）6,270千円 ・地域ブランドの認定・PR（補助金）3,350千円 ・地域資源マップの作成（委託料）9,320千円 ・特別緑地保全地区の管理運営・樹木剪定等（委託料）26,981千円						
主なKPI	①市内5駅の1日平均乗降客数（+7,806人） ②特別緑地保全地区におけるイベント来訪者数（+108人） ③SDGsプラットフォーム参加団体数（+35団体） ④SDGsプラットフォームを契機としたイベント開催回数（+3回）					URL	令和8年8月公表予定

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：瑞穂町自動運転移動サービス実装事業

継続

申請者	東京都瑞穂町					初回採択回	令和7年度第2回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	333,624千円 (105,157千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	自動運転技術の導入により公共交通を再編する。これにより、運転士不足への対応、交通事故の減少（安全性の向上）ダイヤの改善、運行頻度向上等を進め、持続可能かつ利便性の高い公共交通網を形成する。地域住民のみならず、通勤・通学者の交通利便性やモノレール延伸部における新たなまちづくりの効果を高め、町の発展に寄与することを目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業では、「コミュニティバスの一部として自動運転サービスを導入し、住民の移動利便性や地域の持続可能性を高める。」 自動運転レベル4の定常運行を実現し、モノレール延伸を見据えた公共交通の再編や運転士不足への対応を進める。また、運行頻度の増加等によりサービス水準を高め、公共交通の利便性を改善することで、モノレール延伸を契機とした新たなまちづくりの効果を伸ばすとともに、持続可能な公共交通網を形成する。					 		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・自動運転システム保守・運用費 17,930千円 ・車両調律費 5,071千円 ・運営経費 33,517千円 ・地図作成・更新費 10,120千円 ・L4調査費 28,600千円 ・その他（ドライバー人件費、燃料、アンケート調査費等） 9,919千円					 		
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①瑞穂町の人口（▲175人） ②コミュニティバス乗車人数（+7,500人） ③自動車保有台数（▲323人） ④自動車による人身事故件数（▲3人） ⑤乗車後の自動運転サービスへの印象のうち、安心・やや安心の割合（+22%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		令和8年7月公表予定